

稚内高校

令和 8 年度シラバス

普通科 3 年

目次

1. 論理国語	10. 政治・経済	19. 物理	28. 体育	37. 論理・表現Ⅱ
2. 文学国語	11. 発展公民	20. 生物	29. 生涯スポーツ	38. 実用英語
3. 現代文研究	12. 時事問題研究	21. 地学基礎	30. 探究音楽	39. 英語実践
4. 実用国語	13. 数学Ⅲ	22. 探究物理	31. 総合音楽	40. 時事英語
5. 古典研究	14. 数学C	23. 基礎化学研究	32. 探究美術	41. フードデザイン
6. 発展世界史	15. 数学研究 α	24. 探究化学	33. 美術史	42. 保育介護
7. 発展地理	16. 数学研究 β	25. 基礎生物研究	34. 探究書道	43. 情報Ⅱ
8. 発展日本史	17. 数学応用	26. 探究生物	35. 書道表現	44. ビジネス技術
9. 倫理	18. 実用数学	27. 応用科学	36. 英語コミュニケーションⅢ	

教 科 科	国語	科目	論理国語	年次	3	単位数	2	必修
使用教科書	論理国語（大修館書店）							
使用副教材	漢字とことば 常用漢字アルファ（桐原書店） 読み解くための現代文単語（文英堂） 評論速読トレーニング1500（数研出版） 基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店） 共通テスト対策実用文速読トレーニング（数研出版）							
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。			論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、定期考査や課題確認テストなどを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査やレポートなどを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、ミニテストなどを基に評価を算出する。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前 期	4	7	人はなぜ贈与するのか	◎	○	○	ミニテスト レポート 定期考査 授業での様子	
	5	8	相手を意識して書く	○	◎	○		
	6		古典における論理を学ぶ：漢文	○	◎	○		
		1	前期中間考査					
		7	ネットワーク上のコミュニケーション 対比して論じる	○	◎	○		
	期	7	5	古典における論理を学ぶ：漢文	○	◎		○
8		4	共感覚と比喻	○	◎	○		
9		1	前期期末考査					
		8	「である」ことと「する」こと 民法の条文（第1編 総則・第7章 時効）	○ ◎	◎ ○	○ ○		
後 期	10	8	対立した意見をふまえて書く：漢文	○	◎	○	ミニテスト レポート 定期考査 授業での様子	
	11	1	後期中間考査					
	12	8	テーマの具体化・焦点化：言語と他者	○	◎	○		
		7	自由に考えを書く：無常ということ	○	◎	○		
	期	1	5	小論文を書く：さまざまな文章を読んだうえで書く	○	◎		○
2								
3								
合計	70							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず、自ら調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。 ○基本的に、どの単元においても「要約」や「自分の考え」を構成し、それを他者に伝える活動を行います。ここで培う力は、社会で生きるものとなります。 ○定期的に漢字や語句のミニテストを実施します。日進月歩です。 ○論理的な古典の文章（漢文）を読むために、漢文の基礎的知識・技能が求められます。準備しておきましょう。								

教科	科目	国語	文学国語	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書		文学国語（東京書籍）							
使用副教材		詠んで見て覚える重要古文単語315 三訂版（桐原書店） 基礎から学ぶ古典解析文法 三訂版・演習ノート（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版・チェックノート（桐原書店）							
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の算出		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		定期考査や授業内で行う課題、提出物の出来によって算出する。		毎時間行う小テストや課題への取り組み状況によって算出する。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前期	4	2	オリエンテーション・復習テスト			◎	○	◎	復習テスト
		4	（随筆）書かれた風景の中へ			○	◎	○	小テスト・課題
	5	6	※資料 古文「歌物語」を読む			◎	○	○	ワークシート
	6	2	前期中間試験・返却と解説						
		6	（随筆）空っぽの瓶			○	◎	○	小テスト・課題
	7	4	※資料 古文「随筆」を読む			◎	○	○	ワークシート
	8	4	（小説）コンピニの母			○	◎	○	小テスト・課題
後期	9	2	前期期末試験・返却と解説						
		6	（小説）舞姫			◎	◎	○	小テスト・課題 ワークシート
	10	4	（評論）演技する「私」			○	◎	○	小テスト・課題
		4	※資料 古文「評論」を読む			◎	○	○	ワークシート
	11	4	（小説）葉桜と魔笛			○	◎	○	小テスト・課題
		4	※資料 古文「源氏物語」を読む			◎	○	○	ワークシート
	12	2	後期中間試験・返却と解説						
合計		4	1年間の復習			◎	○	○	小テスト・ワークシート
	1	4	（詩歌）詩・俳句			○	◎	○	ワークシート
			※資料 古文「和歌」を読む			◎	◎	○	ワークシート
	2	4							
	3	4							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・ 毎時間、古文単語の小テストを行います。古文を読むための基礎知識として、1年次に引き続き頑張りましょう。また、この点数は「主体的に学習に取り組む態度」の評価にも影響します。 ・ 書くにしろ読むにしろ、語彙を増やすことが大事です。分からない言葉が文章中にあれば、必ず調べましょう。 ・ 思考を広げ、何を感じ、考えたかを大切にしてください。また、「なぜ」自分がそう考えたのか、自身の考えや意見を説明できるスキルを養いましょう。									

教 科 科	国語	科目	現代文研究	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	共通テスト対策【実力養成】重要問題演習現代文(マーク) プログレス〈読解・論点・探究〉現代文総演習・発展編								
科目の目標	評論文を読んで、構成、展開、要旨などを的確に理解し、論理的に思考することで国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	漢字や語句の意味を理解し、正しく使用できるようにする。			自分の考えを論理的にまとめたり、文章を正しく解釈して内容を把握したりすることができるようにする。			予習に取り組んだり復習を欠かさずに行ったりなど、意欲的に学び続ける態度を養う。		
評価の算出	授業内で実施する小テストや定期考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題などによって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への取り組み状況などによって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	評論「日本のデザイン」評論「『本当の自分』の現象学」小説「裸の王様」 評論「コミュニケーションという方法論」評論「科学は今どうなっているのか」						小テスト 定期考査 授業内活動
	5	8	小説「犀鳥」評論「『正義』」随想「ひとり遊び」評論「感性は感動しない」 評論「異文化理解」小説「汚点」			○	◎	○	
	6	7 1	評論「歌よみの眼」随想「わたしはなぜ旅に出るか」 前期中間考査			○	◎		
	7	5	評論「中世的世界とは何だろうか」小説「風味絶佳」随想「天地有情」 評論「ネーションとステートの間で」評論「キャベツ人形の資本主義」						小テスト 定期考査 授業内活動
	8	4	評論「感覚の幽い風景」評論「感想」評論「科学・技術の歴史の中での社会」 評論「伝統と創造」評論「植物はなぜ動かないのか」			○	◎	○	
	9	8 1	詩「ぼろぼろな駝鳥」評論「近現代日本史と歴史学」 前期期末考査						
後 期	10	8	1「日本人にとって美しさとは何か」2「観光とセルフ・オリエンタリズム」3「ツーリズム・モビリティーズ」 11「越前海岸」12「優しい音楽」13「天使の見習い」			○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	11	8 1	4「再生可能エネルギーの導入に伴う『被害』と『利益』の社会的制御」5「フォト・リテラシー」 6大澤真幸の文章Ⅰ・Ⅱ 14「苦瓜を語るにも……」「言葉の入浴」 後期中間考査			○	◎		
	12	7	15「ある一行」「絶望と希望」7「生命科学のユートピア」8「情報とウェルビーイング」 9「都市計画における風景の思想」10「ポスト・プライバシー」16「葬式に行かぬ訳」			○	◎	○	
	1	5	様々な文章						
	2								
	3								
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
※ 大学入試において古典文と現代文が混在している文章を取り上げられていることもあるため、適宜、古典の文章（古文・漢文）を取り扱う可能性がある。 ● 授業の中で問題に取り組み、幅広い分野の作品に触れ、読解する。 ① 客観性に基づいた読解を経て、消去法をベースとした解答の訓練をする。 ② 解答解説をよく読んで、要旨の押さえ方や解き方を学ぶ。 ・ 進学を考えている生徒 共通テストと2次試験を見据えた対策を練る。解くことのみならず、なぜ間違えたのか、原因を究明し、次に取り組むことが重要。 ・ 就職を考えている生徒 問題が何を要求しているのか、正確に読み取る練習をする。基礎的な読解力・思考力・判断力を磨いていく。 ・ 進学就職に共通すること 読めない漢字やわからない語句を見つけたら、タブレット等を用いて必ず調べる。語彙力の向上は、自己推薦書や小論文などの準備になり、履歴書や面接の準備にもなり得る。『現代文単語』や『常用漢字アルファ』の熟読が求められる。									

教 科	国語	科目	実用国語	学年	2～3	単位数	2	選択		
使用教科書	なし									
使用副教材	パスポート国語必携（桐原書店） 1日10分言語力ドリル「聞く・話す」「読む」（第一学習社）									
科目の目標	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成する。 進んで表現することによって、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。 言葉に関する知識を育み、言語感覚を磨く。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	漢字や語句の意味を理解し、正しく使用できるようにする。			自分の考えを論理的にまとめたり、文章を正しく解釈して内容を把握したりすることができるようにする。			予習に取り組んだり復習を欠かさずに行ったりなど、意欲的に学び続ける態度を養う。			
評価の算出	授業内で実施する小テストや定期考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題などによって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への取り組み状況などによって算出する。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	7	・オリエンテーション ※毎時間、漢字の基礎問題を取り組み、小テスト実施 ・原稿用紙の使い方 ・話し言葉と書き言葉			○		○	・プリント、課題 ・小テスト、考査 ・授業の取り組み・発言 上記を総合的に評価	
	5	8	・敬語表現 ・尊敬語と謙譲語、実際の場面を想定した指導			○		○		
	6	7	・作文指導（高校生活で得たもの、自己アピール）				○	○		
	1		・前期中間考査			○	○			
	7	5	・履歴書の書き方 ・正しい文章と丁寧な文字			○		○		
			・手紙文の書き方 ・手紙のマナーと構成			○		○		
	8	4	・電話のかけ方とマナー【話すこと】			○		○		
後 期	9	9	・作文指導（志望理由、これからの心構え） ・面接について ・前期期末考査			○	○	○	・プリント、課題 ・小テスト、考査 ・授業の取り組み・発言 上記を総合的に評価	
	10	8	・【聞く・話す】ドリル1～8 ・【読む】ドリル1～8			○	○	○		
	11	9	・【聞く・話す】ドリル9～14 ・【読む】ドリル9～14 ・後期中間考査			○	○	○		
	12	7	・【聞く・話す】ドリル15～18 ・【読む】ドリル15～18			○	○	○		
	1	5	・国語常識の総まとめ			○	○	○		
	2									
	3									
	合計	70								
	学 習 方 法 ・ そ の 他									
	◎授業と家庭学習の仕方について									
・『パスポート国語必携』に加え、各種課題プリントなどを取り組みます。また、漢字や一般常識、時事問題についての学習も行います。										
・わからない部分や気になることは、辞書や本、インターネットなどを活用して調べましょう。その情報を元に自分の意見を組み立て、意見文を書く取り組みを行います。										
・どの課題に対しても積極的に取り組む姿勢を身につけましょう。自己PRの材料を増やすことにつながります。										
・進路活動に深い関係を持つ内容を取り扱います。必ず修得し、進路活動に活かしましょう。										
・予習…次の時間で取り組む範囲の『パスポート国語必携』を読んでおきましょう。事前に指示します。										
・復習…効率よく修得するために、その日に行った授業内容は、その日のうちに確認しましょう。										

教 科	国語	科目	古典研究	年次	3	単位数	3	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	入試につながる古文・漢文 共通テスト対策実力養成重要問題演習古典								
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を高めていくとともに、古典を通じてものの見方、感じ方、考え方を磨き、古典を通じて、人生を豊かにする態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	古典に用いられている語句の意味や用法、および、文の構造を理解できるようにする。			古典の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができるようにする。			古典としての古文と漢文を読む能力を高め、古典を読み、味わう態度を養う。		
評価の算出	授業内で実施する小テストや定期 考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題など によって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への 取り組み状況などによって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	11	【古文】十訓抄、発心集、古今著聞集、今昔物語集、徒然草、枕草子						小テスト 定期考査 授業内活動
	5	11	【漢文】唐宋八大家文読本、列子、世説新語、約言			○	◎	○	
	6	10 1	【古文】玉勝間、更級日記、和泉式部日記、讀岐典侍日記 前期中間考査			○	◎		
	7	11	【古文】古文真宝後集、戦国策、説苑、池北偶談、蜻蛉日記、毎月抄						小テスト 定期考査 授業内活動
	8	8	【古文】俊頼随脳、去来抄			○	◎	○	
	9	10 1	【漢文】史記、貞観政要、孟子、漢書 前期期末考査						
後 期	10	14	【古文】平家物語、栄華物語、大鏡、伊勢物語、大和物語			○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	11	10 1	【漢文】韓非子、墨子、漢書、国語 後期中間考査			○	◎		
	12	11	【古文】堤中納言物語、落窪物語、源氏物語、住吉物語			○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	1	6	【漢文】呂氏春秋、史記、管子、資治通鑑						
	2								
	3								
合計	105								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
※ 大学入試において古典文と現代文が混在している文章を取り上げられていることもあるため、適宜、現代の文章（評論・小説）を取り扱う。 ● 授業の中で問題に取り組み、幅広い分野の作品に触れ、読解する。 ① 客観性に基づいた読解を経て、消去法をベースとした解答の訓練をする。 ② 解答解説をよく読んで、要旨の押さえ方や解き方を学ぶ。 ● 単語や文法などの知識的事項は、絶えず確認していく。 ・ 「現代と意味が異なる単語」「現代にはない単語」を重点的に古文単語を習得する。 ・ 「現代と意味が異なる漢文漢字」「現代では用いられていない漢文漢字」を重点的に修得する。 ・ 意味が複数ある助動詞や単語は、その訳し分けの方法を重点的に把握する。									

教 科	地理歴史		科目	発展世界史		年次	3		単位数	2		選択
使用教科書	新詳 世界史探究（帝国書院）											
使用副教材	最新世界史図説 タベストーリー（帝国書院） 大学入学共通テスト 世界史トレーニング問題集（山川出版社）											
科目の目標	世界の歴史を地域・時代という観点から総合的に考え理解する。 過去の事象が次なる時代、そして現代、さらに未来へとつながることを理解する。 過去の事象に基づいて、現在世界に存在する諸問題の根源を推察し、解決策を考察できるようにする。											
評価の観点	① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	・歴史の変化を、その背景にある自然や人々の営みなどとの相互的な関係に気づき、理解できたか。 ・歴史の変化に関する疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。				・歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。				・課題等に真摯に取り組んだか。プリントへの書き込みを積極に行ったか。			
評価の算出	・上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				・上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				・上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③	
前 期	4	7	朝鮮史						○	○	◎	取り組み
	5	8	インド史						○	○	◎	取り組み
	6	8	単元テスト 東南アジア史						◎	◎	○	単元テスト、提出物
	7	5	テーマ史（第一次世界大戦・第二次世界大戦）						○	○	◎	取り組み
	8	5	テーマ史（社会主義）						○	○	◎	取り組み
	9	8	単元テスト テーマ史（戦後史）						◎	◎	○	単元テスト、提出物
後 期	10	8	テーマ史（宗教史）						○	○	◎	取り組み
	11	9	文化史（現代西洋文化・現代東洋文化）						○	○	◎	取り組み
	12	7	単元テスト 総合問題演習						◎	◎	○	単元テスト、提出物
	1	5	総合問題演習						○	◎	◎	取り組み
	2											
	3											
合計		70										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○考査及び評価について ・定期考査は行いません。その代わり、単元テストを行います。 ○授業と学習方法 ・教科書、タベストーリー、世界史探究で配布したプリントを用意してください。 ・プリント類は各自なくさないように保管してください。 ・歴史は、出来事や人物に対する興味関心を持ち、「なぜ」「どうして」という疑問を抱きながら勉強することが肝心です。 ・覚えることが多いため、復習を大切にしてください。												

教 科	地理歴史		科目	発展地理		年次	3		単位数	2		選択
使用教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）											
使用副教材	なし											
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、社会的事象の地理的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。											
評価の観点	① 知識・技能					② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	地理に関わる所持証に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解できるか					地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用し多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明することができるか。				知識及び技能を獲得したり、思考、判断、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしているか。また、粘り強い取り組みを行う中で、地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているか。		
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。					上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③	
前 期	4	7	オリエンテーション 地形						○	○	◎	取り組み
	5	8	気候 地球環境問題						○	○	◎	取り組み
	6	8	単元テスト 総合問題演習						◎	◎	○	単元テスト、提出物
	7	5	農林水産業 食糧問題						○	○	◎	取り組み
	8	5	資源・エネルギー 工業						○	○	◎	取り組み
	9	8	単元テスト 第三次産業 交通・通信・観光・貿易						◎	◎	○	単元テスト、提出物
後 期	10	8	人口 都市・村落						○	○	◎	取り組み
	11	9	衣食住・民族・国家 地誌学						○	○	◎	取り組み
	12	7	単元テスト 総合問題演習						◎	◎	○	単元テスト、提出物
	1	5	総合問題演習						◎	◎	◎	取り組み
	2	0										
	3	0										
合計		70										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○持ち物 ・教科書 ・授業プリントをまとめるためのファイル ・筆記用具（２色以上） ○授業 ・図表やグラフがたくさん出てきます。何を表している図表・グラフなのかしっかりと確認するようにしましょう。 ・全ての単元における地図・資料の読み取りの演習を行います。基礎知識は地理探究で習得しているものと考えます。 ○課題・考査 ・定期考査は行いません。その代わりに、単元テストを行ないます。 ○その他 ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・演習を進めます。 ・１回の勉強時間を多くするのではなく、毎日こまめに勉強することが望ましいです。												

教 科		地理歴史 科目	発展日本史	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		詳説日本史（山川出版社）							
使用副教材		図説日本史通覧（帝国書院） 改定版4ステージ演習ノート 日本史B （数研出版）							
科目の目標		日本史探究での学習に基づき、日本の通史の展開を主題ごとに探究することによって、時代ごとの特徴や他分野との関連に気付くことができる歴史的思考力を培い、現代の国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		時代や主題を横断する事象を、その背景にある世界との相互的な関係に留意しながら理解できたか。また、時代や主題を横断する疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。		時代や主題を横断する事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。また、時代や主題を横断する事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。		自らの経験や思考に基づき、時代や主題を横断する疑問を立てることができたか。			
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。		上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	古代の政治機構（天皇以前・天皇・摂関政治）			○	○	◎	取り組み
	5	8	中世・近世の政治機構（武家政権） 近代の政治機構（内閣以前・政党政治）			○	○	◎	取り組み
	6	8	単元考査（政治史） 近代・現代の政治機構（軍部・占領・独立後）			◎	◎	○	定期考査、提出物
	7	5	原始・古代の外交（歴史書・遣隋使・遣唐使・国交断絶）			○	○	◎	取り組み
	8	5	中世・近世の外交（日宋貿易・日明・日朝貿易・南蛮貿易）			○	○	◎	取り組み
	9	8	単元考査（外交史） 近世の外交（朱印船貿易・鎖国体制） 近代・現代の外交（国境画定・中国侵略・国際条約・戦後外交）			◎	◎	○	定期考査、提出物
後 期	10	8	経済史（土地制度・農村・貨幣・税制・資本主義の推移） 産業史（繊維産業・重工業・交通）			○	○	◎	取り組み
	11	9	文化の特徴（政治史との付合） 宗教史（仏教・儒教・神道）			○	○	◎	取り組み
	12	7	単元考査（経済産業史・文化史） 教育史			◎	◎	○	定期考査、提出物
	1	5	総合問題演習			◎	◎	◎	取り組み
	2	0							
	3	0							
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
<持ち物> ・教科書 ・図録 ・授業プリント(授業プリントをまとめるためのファイルを準備してください) <授業> ・原則として、「導入・復習」→「授業プリント」→「振り返りシート」の流れで授業を進めます。 ・原則として、板書などで説明しながら授業プリントに書き込む形式で進めていきます。 ・「人物名」と「人物名以外」で書き込む色を変えることをおすすめします。(なので最低2色) <課題・考査> ・「4ステージ 演習ノート」に準拠した単元考査を行います。 <その他> ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めます。 ・ペアワークとして「教科書読み」「問題の出し合い」を多く取り入れます。 ・次の3つの疑問文を大切にしてください。授業者も常に意識しながら板書・説明をしていきます。 ①「○○とはどういうことか・何か」 ②「○○はなぜか」 ③「○○の結果どうなったか」									

教 科		公民	科目	倫理	学年	3	単位数	2	選択	
使用教科書		倫理（数研出版）								
使用副教材		最新 倫理資料集 テオーリア（第一学習社） 改訂版 4ステージ演習ノート（清水書院）								
科目の目標		人間としての在り方生き方についてより深い学びを通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		諸資料との対話を通じた古今東西の幅広い知的蓄積の学習により、現代の諸課題をより深く思索するために必要な、概念や理論の理解ができていますか。			他者と共によりよく生きる自己の生き方について、学んだ概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりできるか。			人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、主体的に調べ分かつと意欲的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物、授業への取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前期	4	6	第1章 さまざまな人間の心のあり方				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	5	6	第2章 さまざまな人生観 ー源流思想ー							
	6	6	第1節 古代ギリシアの思想 第2節 キリスト教				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
		2	前期中間考査および解答・解説				◎	◎		
	7	6	第3節 イスラーム 第4節 古代インドの思想と仏教 第5節 中国の思想				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
		4	第3章 さまざまな倫理観・世界観 ー西洋近現代思想ー							
	8	4	第1節 理性への信頼と人間の尊厳				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
		4	第2節 自然・科学技術と人間				○	○	◎	
	9	2	前期期末考査および解答・解説				◎	◎		
	6	第3節 個人・社会と自由 第4節 民主社会の倫理				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
後期	10	8	第5節 現代思想の流れ 第6節 現代社会と生き方				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	11	6	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚							
		6	第1節 日本の風土と古代日本人の考え方				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
			第2節 仏教の受容と展開				○	○	◎	
			第3節 儒学の受容と国学の発達				○	○	◎	
			第4節 西洋思想の受容と近現代の日本の思想				○	○	◎	
		2	後期中間考査および解答・解説				◎	◎		授業の取り組み、定期考査
			第2編 現代の諸課題と倫理							
			第1節 生命をめぐる諸課題				○	○	◎	
			第2節 自然をめぐる諸課題				○	○	◎	
第3節 科学技術をめぐる諸課題				○	○	◎				
第4節 福祉をめぐる諸課題				○	○	◎				
	4	第5節 文化と宗教を巡る諸課題				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		第6節 平和をめぐる諸課題				○	○	◎		
3	4	1年間の復習								
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
<持ち物> ・教科書、資料集、演習ノート、配布済ワークシート、タブレットは、必ず持ってきてください。プリントを整理できるものを用意してください。 <授業> ・「話し合い活動」「問題の出し合い」「教科書読み」などのペアワークを多く設定します。 ・必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 <評価> ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の2観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ・授業態度や提出物などで「学びに向かう力・人間性等」を評価します。 <その他> ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めます。 ・1回の勉強時間を多くするのではなく、毎日こまめに勉強することが望ましいです。										

教 科 科		公民	科目	政治・経済	学年	3	単位数	2	選択	
使用教科書		政治・経済（数研出版）								
使用副教材		最新図説 政治経済（浜島書店） スタディノート政治・経済（数研出版）								
科目の目標		社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解し、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。			政治・経済に関する概念や理論などを活用して多面的・多角的に考察することを通して課題を把握、説明したり、解決に向けて構想し、その妥当性や効果、実現可能性などを議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身につけている。			よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物、授業への取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4		第1章 現代の政治							授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査
	4	6	第1節 民主政治の基本原則				○	○	◎	
			第2節 日本国憲法と基本的人権（日本国憲法）				○	○	◎	
	5	6	第2節 日本国憲法と基本的人権（基本的人権・平和主義）				○	○	◎	
			第3節 日本の政治機構（国会・内閣）				○	○	◎	
	6	2	前期中間考査および解答・解説				◎	◎		
	6	6	第3節 日本の政治機構（裁判所・地方自治）				○	○	◎	
			第4節 政治参加と民主政治の課題				○	○	◎	
			第2章 現代の経済							
7	4	第1節 経済活動の意義と経済体制				○	○	◎		
8	4	第2節 現代経済のしくみ				○	○	◎		
9	2	前期期末考査および解答・解説				◎	◎			
9	6	第3節 日本経済と福祉の向上				○	○	◎		
後 期	10	8	第3章 現代の国際社会				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み 授業の取り組み 授業の取り組み 授業の取り組み
			第1節 国際政治の動向				○	○	◎	
			第2節 国際経済の動向				○	○	◎	
	11	6	第3節 国際社会の課題と日本の役割				○	○	◎	
		2	後期中間考査および解答・解説				◎	◎		
	12	6	総合問題演習				◎	○		
	1	4	総合問題演習				◎	○		
	2	4	総合問題演習				◎	○		
3	4	総合問題演習				◎	○			
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
<持ち物> ・教科書 ・スタディーノート『政治・経済』 <授業> ・必要に応じてメモしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 <評価> ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の2観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ・授業態度や提出物などで「学びに向かう力・人間性等」を評価します。 <その他> ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めます。 ・1回の勉強時間を多くするのではなく、毎日こまめに勉強することが望ましいです。										

教 科		公民	科目	発展公民	学年	3	単位数	2	選択	
使用教科書		倫理（数研出版）								
使用副教材		最新 倫理資料集 テオリア（第一学習社） 改訂版 ４ステージ演習ノート（清水書院）								
科目の目標		人間としての在り方生き方についてより深い学びを通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		諸資料との対話を通した古今東西の幅広い知的蓄積の学習により、現代の諸課題をより深く思索するために必要な、概念や理論の理解ができていますか。			他者と共によりよく生きる自己の生き方について、学んだ概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりできるか。			人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、主体的に調べ分かってろうと意欲的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。			・定期考査 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。			・提出物、授業への取り組み 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
	4	7	第１章 さまざまな人間の心のあり方				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	5		第２章 さまざまな人生観 ―源流思想―							
		8	第１節 古代ギリシアの思想 第２節 キリスト教				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	6	2	前期中間考査および解答・解説				◎	◎		
		6	第３節 イスラーム 第４節 古代インドの思想と仏教 第５節 中国の思想				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	7		第３章 さまざまな倫理観・世界観 ―西洋近現代思想―							
		5	第１節 理性への信頼と人間の尊厳				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	8	5	第２節 自然・科学技術と人間				○	○	◎	
	9	2	前期期末考査および解答・解説				◎	◎		
	6	第３節 個人・社会と自由 第４節 民主社会の倫理				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
後 期	10	8	第５節 現代思想の流れ 第６節 現代社会と生き方				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	11		第４章 国際社会に生きる日本人としての自覚							授業の取り組み、定期考査
		7	第１節 日本の風土と古代日本人の考え方				○	○	◎	
			第２節 仏教の受容と展開				○	○	◎	
			第３節 儒学の受容と国学の発達				○	○	◎	
			第４節 西洋思想の受容と近現代の日本の思想				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査
		2	後期中間考査および解答・解説				◎	◎		
			第２編 現代の諸課題と倫理							授業の取り組み
		12	第１節 生命をめぐる諸課題				○	○	◎	
			第２節 自然をめぐる諸課題				○	○	◎	
		第３節 科学技術をめぐるとる課題				○	○	◎		
	1	5	第４節 福祉をめぐる諸課題				○	○	◎	授業の取り組み
	2	0	第５節 文化と宗教を巡る諸課題				○	○	◎	授業の取り組み
		0	第６節 平和をめぐる諸課題				○	○	◎	
	3	0	１年間の復習							
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
<持ち物> ・教科書、資料集、演習ノート、配布済ワークシート、タブレットは、必ず持ってきてください。プリントを整理できるものを用意してください。 <授業> ・発展公民は、倫理の応用編とみなす科目であり、さらに深い学びの学習を目指します。 ・「話し合い活動」「問題の出し合い」「教科書読み」などのペアワークを多く設定します。 ・必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 <評価> ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の２観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ・授業態度や提出物などで「学びに向かう力・人間性等」を評価します。 <その他> ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めます。 ・１回の勉強時間を多くするのはなく、毎日こまめに勉強することが望ましいです。										

教 科		公民	科目	時事問題研究	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書		改訂版 政治・経済 （数研出版）								
使用副教材		政治・経済資料集 （東京法令出版）、スタディーノート政治・経済								
科目の目標		社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解し、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。			政治・経済に関する概念や理論などを活用して多面的・多角的に考察することを通して課題を把握、説明したり、解決に向けて構想し、その妥当性や効果、実現可能性などを議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身につけている。			よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	第1編 第1章 民主政治の基本原理解				○	○	◎	取り組み
	5	8	第1編 第2章 日本国憲法と基本的人権				○	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
			第1編 第3章 日本の平和主義と安全保障 第4章 日本の政治機構				○	○	◎	取り組み
	7	5	第1編 第5章 現代日本の政治				○	○	◎	取り組み
	8	5	第1編 第6章 国際政治と日本				○	○	◎	取り組み
後 期	9	8	前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
			第2編 第1章 経済社会の変容				○	○	◎	取り組み
	10	8	第2編 第2章 現代日本の経済				○	○	◎	取り組み
	11	9	第2編 第3章 国際経済と日本				○	○	◎	取り組み
	12	7	後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
			第3編 第1章 現代日本の諸課題				○	◎	◎	取り組み
	1	5	第3編 第2章 国際社会の諸課題				○	◎	◎	取り組み
	2	0								
3	0									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○考査及び評価について（補足） ・上の「評価算出」で合算した点数を、考査の平均点を考慮し評価段階にあてはめて評価をします。 ○授業と学習方法 ・時事問題研究は、政治経済の応用編とみなす科目であり、さらに深い学びの学習を目指します。 ・持ち物は、教科書・問題集・資料集・プリントを保管するためのファイルの計4点です。 ・授業は、政治経済を復習しながら日頃のニュースを照らし合わせてこの先の日本の在り方について考察していきます。 ・常日頃から、ニュースに興味や関心をもち、新聞やテレビのニュースに目を通しておく習慣をつけておきましょう。										

教 科		数 学	科 目	数 学Ⅲ	年 次	3	単 位 数	3	選 択		
使用教科書		高等学校 数学Ⅲ（数研出版）									
使用副教材		4プロセス 数学Ⅲ＋C〔複素数平面・式と曲線〕（数研出版）									
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。			
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	9	第1章 関数	分数関数／無理関数／逆関数と合成関数				◎	○	◎	小テスト、提出物
	5	9	第2章 極限	数列の極限／関数の極限				○	◎	◎	小テスト、提出物
	6	12	前期中間考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
			第3章 微分法	導関数／いろいろな関数の導関数				◎	○	◎	小テスト、提出物
	7	6	第4章 微分法の応用	導関数の応用				○	◎	◎	小テスト、提出物
	8	6		いろいろな応用				○	◎	◎	小テスト、提出物
	9	12	前期期末考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
		第5章 積分法とその応用	不定積分				◎	○	◎	小テスト、提出物	
後 期	10	12		定積分				◎	○	◎	小テスト、提出物
	11	12		積分法の応用				○	◎	◎	小テスト、提出物
	12	9	後期中間考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
				入試問題演習				○	◎	◎	小テスト、提出物
	1	6		入試問題演習				○	◎	◎	小テスト、提出物
	2	6									
	3	6									
合 計		105									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。											

教 科		数 学	科 目	数 学 C	年 次	3	単 位 数	2	選 択	
使用教科書		高等学校 数学 C（数研出版）								
使用副教材		4プロセス 数学 C [ベクトル、複素数平面、式と曲線]（数研出版）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	第1章 平面上のベクトル ベクトルとその演算				◎	○	◎	小テスト、提出物
	5	6	ベクトルと平面図形				○	◎	◎	小テスト、提出物
			第2章 空間のベクトル 空間のベクトル				○	◎	◎	小テスト、提出物
	6	8	前期中間考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物
			第3章 複素数平面 複素数平面				◎	○	◎	小テスト、提出物
	7	4	複素数の極形式				◎	○	◎	小テスト、提出物
	8	4	ド・モアブルの定理				◎	○	◎	小テスト、提出物
			複素数と図形				○	◎	◎	小テスト、提出物
9	8	前期期末考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物	
		第4章 式と曲線 2次曲線				◎	○	◎	小テスト、提出物	
後 期	10	8	媒介変数表示と極座標				○	◎	◎	小テスト、提出物
	11	8	入試問題演習				○	◎	◎	小テスト、提出物
	12	6	後期中間考査				◎	◎	◎	定期考査、提出物
			入試問題演習				○	◎	◎	小テスト、提出物
	1	4								
	2	4								
	3	4								
合 計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科	数 学	科 目	数学研究 α	年 次	2～3	単位数	2	選 択	
使用教科書	なし								
使用副教材	攻略！共通テスト Pick Up 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B+C（東京書籍）								
科目の目標	数学Ⅰおよび数学Aの各分野を横断するテーマやそれらと生活を相互に関連付けた発展的なテーマを設定し、そのテーマにかかわる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、数学を積極的に研究する態度と処理能力を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	数と式／2次関数			◎	○	◎	取り組み
	5	6	2次関数／図形と計量			◎	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
	7	4	集合と論証／場合の数と確率			◎	○	◎	取り組み
			データの分析			◎	○	◎	取り組み
	8	4	図形の性質			◎	○	◎	取り組み
後 期	9	8	前期期末考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
			数と式／2次関数			○	◎	◎	取り組み
	10	8	図形と計量／データの分析			○	◎	◎	取り組み
	11	8	場合の数と確率／図形の性質			○	◎	◎	取り組み
	12	6	後期中間考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
	1	4	入試問題演習			○	◎	◎	取り組み
入試問題演習			○	◎	◎	取り組み			
2	4								
3	4								
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。									

教 科		数学	科目	数学研究β	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		攻略！共通テスト Pick Up 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B+C（東京書籍）								
科目の目標		各分野を横断するテーマやそれらと生活を相互に関連付けた発展的なテーマを設定し、そのテーマにかかわる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、数学を積極的に研究する態度と処理能力を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	三角関数／指数関数・対数関数				◎	○	◎	取り組み
	5	8	指数関数・対数関数／微分と積分				◎	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	7	5	数列／統計的な推測				◎	○	◎	取り組み
			方程式・式と証明／図形と方程式				◎	○	◎	取り組み
	8	5	三角関数／指数関数・対数関数				◎	◎	◎	取り組み
9	8	前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			指数関数・対数関数／微分と積分				○	◎	◎	取り組み
後 期	10	8	数列／統計的な推測				○	◎	◎	取り組み
	11	9	方程式・式と証明／図形と方程式				○	◎	◎	取り組み
	12	7	後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	1	5	入試問題演習（数学Cの分野を含む）				○	◎	◎	取り組み
			入試問題演習（数学Cの分野を含む）				○	◎	◎	取り組み
	2	0								
3	0									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	数学応用	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		4プロセス 数学Ⅰ＋A （数研出版）								
科目の目標		数学Aで学習した基礎的な概念や原理・法則を活かして、より高度な問題、生活を相互に関連付けた発展的なテーマや課題について、主体的に解決できる態度を育てるとともに、計算技能や問題解決能力の向上を図る。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	集合の要素の個数／場合の数				◎	○	◎	取り組み
	5	8	順列／組合せ／事象と確率／確率の基本性質				◎	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	7	5	独立な試行と確率／条件付き確率／期待値				○	◎	◎	取り組み
			三角形の辺の比／三角形の外心・内心・重心				◎	○	◎	取り組み
	8	5	チェバの定理・メネラウスの定理				○	◎	◎	取り組み
	9	8	円に内接する四角形				◎	○	◎	取り組み
前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物			
円と直線／2つの円／直線と平面				◎	○	◎	取り組み			
後 期	10	8	空間図形と多面体				○	◎	◎	取り組み
	11	9	約数と倍数／素数と因数分解				◎	○	◎	取り組み
	12	7	最大公約数・最小公倍数／整数の割り算				◎	○	◎	取り組み
			後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	1	5	ユークリッドの互除法／1次不定方程式				◎	○	◎	取り組み
			記数法／座標の考え方				◎	○	◎	取り組み
2	0									
3	0									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもらう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	実用数学	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		テスト式就職 数学Ⅰ・A（浜島書店）、SPI3をひとつひとつわかりやすく。（Gakken）								
科目の目標		数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則について理解を深め、実践的な数学を用いた就職試験を見据えた基礎的な能力を養う。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	四則の混じった計算／公倍数と公約数				◎	○	◎	取り組み
			分数の計算／小数と分数の関係				◎	○	◎	取り組み
	5	8	割合の単位／比の計算／つるかめ計算				○	◎	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
			年齢算／損益計算				◎	○	◎	取り組み
	7	5	速さ				○	◎	◎	取り組み
	8	5	濃さ				○	◎	◎	取り組み
9	8	前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
		仕事算／場合の数				◎	○	◎	取り組み	
後 期	10	8	確率／集合				○	◎	◎	取り組み
	11	9	推論				○	◎	◎	取り組み
	12	7	後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
			グラフの読み取り／n進法				◎	○	◎	取り組み
	1	5	総合演習				◎	◎	◎	取り組み
	2	0								
	3	0								
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科		理科	科目	物理	年次	3	単位数	4	必修	
使用教科書		物理（数研出版）								
使用副教材		三訂版 リードLightノート物理（数研出版）								
科目の目標		物理的な事物・現象に関わり、理科の見方、考え方を働かせ見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目的とする。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけようとする。			観察・実験などを行い、得られた結果について科学的に探求する力を身につけようとする。			物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身につけようとする。		
評価の算出		定期考査 実験・観察			定期考査 実験レポート 単元のまとめ			単元テスト 振り返り		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	1	●オリエンテーション							単元テスト・単元のまとめ 実験レポート 単元テスト・単元のまとめ 単元テスト・単元のまとめ 定期考査 単元テスト・単元のまとめ 単元テスト・振り返り 単元テスト・単元のまとめ 定期考査
		7	○平面内の運動				○	○	○	
	5	2	[観察・実験]水平投射				○	○		
		7	○剛体のつり合い				○	○	○	
		8	○運動量				○	○	○	
		1	前期中間考査				○	○		
	6	14	○円運動と単振動				○	○	○	
		3	○万有引力				○	○	○	
	7	●熱と気体								
	8	11	○気体分子の運動				○	○	○	
9	1	前期期末考査				○	○			
後 期	10	●波								
	11	8	○波の伝わり方				○	○	○	
		2	[観察・実験]波の干渉の観察				○	○	○	
		10	○音				○	○	○	
		10	○光				○	○	○	
		4	[観察・実験]実像・虚像の作図				○	○		
		●電気と磁気								
	9	○電場				○	○	○		
	11	○電流				○	○	○		
	1	後期中間考査				○	○			
	12	9	○電磁誘導と電磁波				○	○	○	
		9	○電流と磁場				○	○	○	
	1	●原子								
5		○電子と光				○	○	○		
5		○原子と原子核				○	○	○		
2		[観察・実験]半減期のモデル実験				○	○			
合計		140								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・毎回必ずタブレットを持ってくること。 ・公式や計算過程を丸写しするのではなく、式や計算を言葉として捉えて、その意味を考える癖をつけてください。 ・これまで数学で習った計算はしっかりと取り組んでください。 ・わからない箇所はわからないままにせず、授業後すぐに質問しましょう。 少しずつで構いませんから、まずは毎日勉強する習慣をつけましょう。 授業で学習した内容を思い出しながら、教科書とプリントを見返して重要な点を自分なりに整理しましょう。 知識の整理ができれば、副教材で問題演習をし、理解できているかを確認しましょう。										

教 科			理科	科目	生物	学年	3	単位数	4	選択	
使用教科書			生物（数研出版）								
使用副教材			改訂版 リードα生物（数研出版），二訂版ニューステージ生物図表（浜島書店）								
科目の目標			生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。								
評価の観点			① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨			生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。			生物や生物現象を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報収集，実験による検証を行い，科学的に探究している。			生物や生物現象に主体的に関わり，それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど，科学的に探究しようとしている。		
評価の算出			定期考査・小テスト・提出課題・レポート・授業参加			定期考査・小テスト・提出課題・レポート・授業参加			提出課題・小テスト・レポート・授業参加		
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③	
前 期	4	1	●オリエンテーション							○	授業参加
		12	●生命の起源と細胞の進化					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	5	13	●遺伝子の変化と進化の仕組み					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	【観察・実験】遺伝子頻度の変化に関する演習					○	◎	◎	レポート・授業参加
	6	1	《前期中間考査》					◎	◎		定期考査
		15	●生物の系統と進化					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	7	1	【観察・実験】系統樹に関する演習								
		14	●細胞と分子					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	8	11	●代謝					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	【観察・実験】代謝に関する実験					○	◎	◎	レポート・授業参加
9	1	《前期期末考査》					◎	◎		定期考査	
	5	●遺伝情報とその発現					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加	
	9	●発生と遺伝子発現 ●遺伝子を扱う技術					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加	
後 期	10	1	【観察・実験】発生の観察					○	◎	◎	レポート・授業参加
		15	●動物の反応と行動					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	11	1	【観察・実験】刺激の受容と行動に関する器官の観察					○	◎	◎	レポート・授業参加
		13	●植物の環境応答					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	12	1	《後期中間考査》					◎	◎		定期考査
		13	●個体群と生物群集					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	1	1	【観察・実験】個体群調査に関する演習					○	◎	◎	レポート・授業参加
10		●生態系					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加	
合計		140									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・毎回必ず，教科書・図表・タブレット端末を準備してください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち，授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・問題演習を中心に知識を定着させましょう。特に記述問題は解答を見ずに，一度はチャレンジしましょう。 ・一つ一つの語句の意味を自身で説明できるようになるまで，繰り返し確認しましょう。 わたしたちは，様々な生命現象の中で生活をしています。その奥深さに触れていきましょう！											

教 科			理科	科目	地学基礎	学年	3	単位数	3	選択		
使用教科書			改訂版 高等学校地学基礎（数研出版）									
使用副教材			改訂 ネオパールノート地学基礎（第一学習社）									
科目の目標			地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。									
評価の観点			① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨			日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。			地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報収集、実験による検証を行い、科学的に探究している。			地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の算出			小テスト・レポート課題・定期考査			小テスト・レポート課題・定期考査			授業参加・提出課題・小テスト			
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③	
前 期	4	1	○オリエンテーション						◎	○	◎	小テスト・レポート課題
		10	○地球のすがた									
	5	6	・地球の外観・プレートの運動						◎	○	◎	小テスト・レポート課題
			○地球の活動									
		5	・地震						◎	◎	○	小テスト
	6	1	《前期中間考査》						◎	◎		定期考査
	6	10	・火山活動						◎	○	◎	レポート課題・授業参加
		○大気と海洋										
	7	11	・地球のエネルギー収支						◎	◎	○	小テスト
後 期	8	8	・大気と海水の運動						◎	◎	○	レポート課題
	9	1	《前期期末考査》						◎	◎		定期考査
		○宇宙と地球										
	10	・宇宙と太陽の誕生						◎	○	○	小テスト	
後 期	10	14	・太陽系と地球の誕生						◎	○	○	小テスト
		○地層と化石										
	11	10	・地球と生物の変遷						◎	◎	◎	課題レポート・授業参加
		1	《後期中間考査》						◎	◎		定期考査
	12	11	・地層と化石						◎	○	○	小テスト
後 期		○地球の環境										
	1	6	・地球環境の科学・日本の自然環境						○	○	◎	課題レポート・授業参加
合計		105										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
◎授業の受け方 ・毎回必ず、教科書・ノートを持参してください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・問題演習を中心に知識を定着させましょう。特に記述問題は解答を見ずに、一度はチャレンジしましょう。 ・一つ一つの語句の意味を自身で説明できるようになるまで、繰り返し確認しましょう。 わたしたちの生活には様々な地球活動が関わっています。その奥深さに触れていきましょう！												

教 科	理科	科目	探究物理	学年	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	物理に関する分野において、発展的または先進的なテーマを設定し、そのテーマに関わる課題についての探究活動を通して、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、物理をはじめとした課題に対し積極的に解決を図ろうとする態度を育む。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	物理現象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。			多角的、複合的に事象を捉え、物理学に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。			様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。		
評価の算出	授業への取り組み・提出課題・単元テスト			授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト			授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	平面内の運動と剛体のつり合いに関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	5	8	運動量に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	6	8	円運動と単振動に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	7	5	万有引力に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	8	5	気体分子の運動に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	9	8	波に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
後 期	10	8	電気と磁気に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	11	9	原子に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	12	7	これまでの振り返りとまとめ			○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト
	1	5	これまでの振り返りとまとめ			○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト
	2								
	3								
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・授業中または、日常でみられる物理現象に関して疑問を持ち、それを定義や数式を用いて解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・授業で学んだ内容を思い返して、難しく感じるものがあれば「物理」の授業の教科書や副教材を活用して学習を進めてください。 私たちが生きるこの地球や宇宙空間は様々な物理法則に則って存在しています。先人たちが導いたこの美しさを学んでいきましょう！									

教 科		理科	科目	基礎化学研究		学年	3	単位数	2	選 択	
使用教科書		なし									
使用副教材		大学入学共通テスト攻略問題集新課程版ビーライン化学基礎									
科目の目標		化学に関する分野において、特に身の回りの生活において活用される基礎的なテーマを設定し、そのテーマにかかわる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、化学を積極的に研究する態度を育む。									
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨		化学について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。				多角的、複合的に事象を捉え、化学に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。				様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。	
評価の算出		授業への取り組み・提出課題・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト	
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③	
前 期	4	7	探究の進め方と観察・実験の基本的な技能について					◎	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト
	5	8	化学と物質に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	6	8	物質の構成粒子に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	7	5	物質と化学結合に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	8	5	物質量と化学反応式に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	9	8	物質量と化学反応式に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
後 期	10	8	化学反応に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	11	9	化学反応に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	12	7	化学が拓く世界に関する研究					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	1	5	振り返りとまとめ					○	◎	◎	授業への取り組み・レポート
	2										
	3										
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・授業で学んだ内容を思い返して、難しく感じるがあれば「化学基礎」の授業の教科書や副教材を活用して学習を進めてください。 わたしたちは、様々な物質に囲まれて生活をしています。その性質の面白さに触れていきましょう！											

教 科		理科	科目	探究化学		学年	3	単位数	2	選 択	
使用教科書		なし									
使用副教材		大学入学共通テスト攻略問題集 新課程版 ビーライン化学									
科目の目標		化学に関する分野において、発展的または先進的なテーマを設定し、そのテーマに関わる課題についての探究活動を通して、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、化学をはじめとした課題に対し積極的に解決を図ろうとする態度を育む。									
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨		化学に関わる事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。				多角的、複合的に事象を捉え、化学に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。				様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。	
評価の算出		授業への取り組み・提出課題・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト	
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③	
前 期	4	7	物質の状態とその変化に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	5	8	溶液と平衡に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	6	8	振り返りとまとめ					○	◎	◎	授業への取り組み・レポート・単元テスト
	7	5	化学反応とエネルギーに関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	8	5	化学反応と化学平衡に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	9	8	振り返りとまとめ					○	◎	◎	授業への取り組み・レポート・単元テスト
後 期	10	8	無機物質の性質に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	11	9	有機化合物の性質に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	12	7	高分子化合物に関する探究活動					◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	1	5	振り返りとまとめ					○	◎	◎	授業への取り組み・レポート・単元テスト
	2										
	3										
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・授業で学んだ内容を思い返して、難しく感じるものがあれば「化学」の授業の教科書や副教材を活用して学習を進めてください。 わたしたちの生活は様々な化学反応に囲まれています。これまでの知識の積み重ねを応用し、その面白さに触れていきましょう！											

教 科		理科	科目	基礎生物研究		学年	2～3		単位数	2		選択		
使用教科書		なし												
使用副教材		駿台文庫 生物基礎 単元別問題集＜第2版＞												
科目の目標		生物に関する分野において、日常生活や社会と関連する基礎的なテーマを設定し、そのテーマにかかわる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、生物を積極的に研究する態度を育む。												
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		生物や生物現象について研究するために必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている。				多角的、複合的に事象を捉え、生物に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。				様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。				
評価の算出		授業への取り組み・提出課題・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト				授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト				
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容							①	②	③		
前 期	4	7	探究の進め方と観察・実験の基本的な技能について							◎	○	◎	授業への取り組み・課題	
	5	8	生物の特徴に関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
	6	8	遺伝子とその働きに関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
	7	5	振り返りとまとめ							○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト	
	8	5	神経系と内分泌系による調節に関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
	9	8	免疫の働きに関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
後 期	10	8	振り返りとまとめ							○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト	
	11	9	植生と遷移に関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
	12	7	生態系とその保全に関する研究							◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート	
	1	5	振り返りとまとめ							○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト	
	2													
	3													
合計		70												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
◎授業の受け方 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・授業で学んだ内容を思い返して、難しく感じるものがあれば「生物基礎」の授業の教科書や副教材を活用して学習を進めてください。 わたしたちは、様々な生命現象の中で生活をしています。その奥深さに触れていきましょう！														

教 科	理科	科目	探究生物	学年	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	生物に関する分野において、発展的または先進的なテーマを設定し、そのテーマに関わる課題についての探究活動を通して、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、課題に対し積極的に解決を図ろうとする態度を育む。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	生物や生物現象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。			多角的、複合的に事象を捉え、生物に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。			様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。		
評価の算出	授業への取り組み・提出課題・単元テスト			授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト			授業への取り組み・提出課題・単元レポート・実験レポート・単元テスト		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	生物の進化に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	5	8	生物の進化に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	6	8	生命現象と物質に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	7	5	生命現象と物質に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	8	5	遺伝情報の発現と発生に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	9	8	遺伝情報の発現と発生に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
後 期	10	8	生物の環境応答に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	11	9	生物の環境応答に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・レポート
	12	7	生態と環境に関する探究活動			◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	1	5	振り返りとまとめ			○	◎	◎	授業への取り組み・レポート
	2								
	3								
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・授業で学んだ内容を思い返して、難しく感じるものがあれば「生物」の授業の教科書や副教材を活用して学習を進めてください。 わたしたちは、様々な生命現象の中で生活をしています。その奥深さに触れていきましょう！									

教 科		理科	科目	応用科学	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		なし									
科目の目標		(1) 科学的な現象について、基礎的な内容を学習し、基本的な概念や原理・法則を理解する。 (2) 科学的な見方や考え方を身に付ける。 (3) 実験や観察を行い、その結果に対して論理的に考える力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。			多角的、複合的に事象を捉え、科学に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。			様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を身に付けている。			
評価の算出		授業への取り組み・課題・実験レポート			授業への取り組み・課題・単元レポート・実験レポート・発表の様子			授業への取り組み・課題・単元レポート・実験レポート・発表の様子			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	7	探究の進め方についての基礎学習 ●物理、化学、生物、地学の基礎知識を理解する。				◎	○	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	5	8	基本的な観察・実験の方法についての基礎学習 ●物理、化学、生物、地学の基礎知識を理解する。				◎	○	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	6	8	特定の自然の事物・現象に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	7	5	特定の自然の事物・現象に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	8	5	先端科学や学際的領域に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	9	8	先端科学や学際的領域に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
後 期	10	8	自然環境の調査に基づく研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	11	9	自然環境の調査に基づく研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	12	7	科学を発展させた実験に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	1	5	科学を発展させた実験に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	2										
	3										
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
【授業の受け方、学び方】 自ら設定した研究テーマに関する実験が主となります。未知のことを調べるために、どのような実験をすれば良いのか。実験の方法そのものを考えることから始め、実際に実験や観察を行い、実験結果が本当に正しいのかどうかを見極め、成果を発表する。ここまで到達するために、自分が今何をしなければならないのかを常に考えてください。 研究テーマの設定時や、実際に実験を進めていく過程で、なぜ、どうして？と疑問が出てくると思います。その疑問を解決し、説明できるようにすることが重要です。少しずつ科学の世界の面白さや、奥深さに触れていきましょう！											

教 科		保健体育		科目	体育	学年	3	単位数	2	必修		
使用教科書		なし										
使用副教材		なし										
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。										
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。				グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。				運動に主体的に取り組む、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。				A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。				A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③		
前 期	4	1	オリエンテーション【1】					○	○	○	小テスト 記録用紙 新体カテスト換算表 記録用紙 縄跳び換算表 記録用紙 長距離走タイム換算表 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト	
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力					○	○	○		
		2	集団行動【2】					○	○	○		
		9	新体カテスト【4】体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び					○	○	○		
	6	3	陸上競技：長距離走【3】					○	○	○		
		8	選択Ⅰ【8】（球技種目①選択） バレーボール、ソフトボール					○	○	○		
	7	11	カーリング授業【11】					○	○	○		
	8											
	9	8	選択Ⅱ【8】（球技種目②選択） サッカー、バスケットボール					○	○	○		
後 期	10	14	選択Ⅲ【14】（球技種目③選択） バドミントン、卓球					○	○	○	記録用紙 種目確認・各種テスト 小テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 小テスト	
	11	2	体育理論【2】：②ライフスタイルに応じたスポーツ ③スポーツを推進する取り組み					○	○	○		
	12	8	選択Ⅳ【8】 ニュースポーツ （種目：インディアカ、ソフトバレー、シュックボール、ユニバーサルホッケー、アルティメット）					○	○	○		
	1	3	体育理論【3】：④スポーツライフの設計 ⑤諸外国のスポーツを推進する取り組み ⑥豊かなスポーツライフの創造					○	○	○		
	2											
	3											
	合計	70										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることが大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（バーバーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。												

教 科		保健体育	科目	生涯スポーツ	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		なし									
科目の目標		授業の計画・実践や、ニュースポーツの実践等を通じて主体的にスポーツ活動に親しみ、自他の豊かなスポーツライフの実現に寄与する資質や能力を育てる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		・運動の特性や魅力について学ぶとともに、実践を通して知識・技能を高めようとしている。			・仲間の意見を尊重し、課題の解決に向けた建設的な提案ができる。 ・学習内容や話し合い活動等の内容を適切に資料にまとめることができる。			・運動に主体的に取り組み、自己の役割を見つけその責任を果たそうとしている。			
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	7	オリエンテーション、指導法の理解、授業計画作成方法の理解				○	○	○	観察による評価	
		2	教員の模擬授業（ゴール型）				○	○	○	観察による評価	
		5	7	授業計画の作成と発表会と相互評価①（ゴール型）				○	○	○	指導案・模擬授業による評価
	6	7	授業計画の作成と発表会と相互評価②（ゴール型）				○	○	○	指導案・模擬授業による評価	
		7	2	教員の模擬授業（ネット型）				○	○	○	観察による評価
			7	授業計画の作成と発表会と相互評価①（ネット型）				○	○	○	指導案・模擬授業による評価
			8	7	授業計画の作成と発表会と相互評価②（ネット型）				○	○	○
		9									
後 期	10	6	教員の模擬授業（ニュースポーツ）				○	○	○	観察による評価	
		10	授業計画の作成と発表会と相互評価（ニュースポーツ）				○	○	○	指導案・模擬授業による評価	
	11	5	創作スポーツの準備				○	○	○	観察による評価	
		12	5	授業計画の作成と発表会と相互評価（創作スポーツ）				○	○	○	指導案・模擬授業による評価
	1	5	まとめ（これまでのスポーツの振り返り）					○	○	観察による評価	
		2									
		3									
	合計	70									
	学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用します。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・運動への関わり方を理解し、主体的に運動に関わることができるように授業を展開します。 ・グループ・チームで目標・計画を設定して活動を展開します。教え合い・学び合いを意識して行動しましょう。 ◎提出物について ・展開に応じて「相互評価シート」や「振り返りシート」をTeamsの課題として共有・提示します。コピー及びペーストをすることなく提出期限を守ることを大切にして下さい。「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内でペーパーテストを実施する可能性があります。											

教 科	芸術	科目	探究音楽	年次	3	単位数	2	選択
使用教科書	なし							
使用副教材	なし							
科目の目標	音楽の各分野における知識の習得と技能の習熟を図り、発展的な表現・思考力を身につけるとともに、それぞれの分野について実際に演習しながら実践的な能力を養う。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	音楽の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、音楽能力の向上を図り、音楽の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			音楽の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、曲や音楽の伝統と文化の意味や価値を考え、音楽の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、音楽の伝統と文化と豊かに関わり、音楽の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。	
評価の算出	授業中の様子、提出物、小テスト、実技により、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。							
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前 期	4	1	オリエンテーション	◎	○	○	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。	
		4	音程	◎	○	○		
	5							
	6	4	発想記号	◎	○	○		
		4	和音	◎	○	○		
後 期	7	15	西洋音楽史	◎	○	○	【知識・技能】 主に授業中に取り組んだ課題や実技により評価します。	
	8							
	9	10	聴音	○	◎	○		
後 期	10	10	新曲視唱	◎	○	○	【思考・判断・表現】 主に提出された課題、振り返り、自己評価により評価します。	
	11							
		10	コールユーブンゲン	○	◎	○		
	12							
	1	12	器楽実技演奏	○	◎	○		
	2						【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。	
	3							
合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他								
チャイムが鳴ったと同時に授業を開始します。授業開始から5分間は毎回ソルフェージュの課題を1つ取り組み、学習の定着化を図ります。また、単元の終了ごとに小テストを行います。								

教科	科目	総合音楽	年次	3	単位数	2	選択
使用教科書	なし						
使用副教材	なし						
科目の目標	音楽の創造的な制作活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、音楽の伝統と文化についての理解を深める。						
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	音楽の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、音楽能力の向上を図り、音楽の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。		音楽の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、曲や音楽の伝統と文化の意味や価値を考え、音楽の美を味わい捉えたりしている。		感性を高め、音楽の伝統と文化と豊かに関わり、音楽の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出	授業中の様子、提出物、実技により、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。						
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション	○	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。
		4	【楽典】（音名、拍子、強弱記号）	◎	○	○	
	5						
	6	3	【鑑賞】 ・音とイメージ	○	◎	○	
	7	18	【器楽・創作】 ・箏	◎	○	○	
後 期	8						【知識・技能】 主に授業で行った課題や実技により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された課題、鑑賞文、振り返り、自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかもちこに含めます。
	9	3	【鑑賞】 ・オーケストラの楽器	○	◎	○	
	10	6	【歌唱】 ・合唱	◎	○	○	
	11	33	【器楽】 ・選択器楽演奏	◎	○	○	
	12						
期	1	2	【器楽】 ・卒業演奏会	○	○	◎	
	2						
	3						
合計	70						
学 習 方 法 ・ そ の 他							
◎授業内容 音楽は表現の分野で【歌唱】【器楽】【創作】、鑑賞の分野で【鑑賞】を行います。 『歌やリコーダーが苦手…』という人もいますが、評価は実技ではありません。創作や鑑賞や筆記などもありますので心配いりません。 音楽の授業で一番重要なことは、一生懸命授業に臨むことです。							

教 科		芸術	科目	美術史	年次	3	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		鑑賞のための西洋美術史									
科目の目標		文化遺産や美術文化についての理解を深め、伝統文化を尊重する態度と国際協調の精神及び新たな美術文化を創造していく基礎となる能力を高める。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		文化遺産や美術文化の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、理解を深めることができるか。			文化遺産や美術文化の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、新たな美術文化を創造していく基礎となる思考力、判断力、表現力等を働かせているか。			主体的に文化遺産や美術文化について考え、理解を深め、新たな美術文化を創造していく基礎となる思考力、判断力、表現力等を働かせているか。また、伝統を尊重する態度と国際協調の精神が養われているかなど。			
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。									
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③
前期	4 5 5 7 7 8	1	オリエンテーション シラバスの確認								各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 各章で出てきた出来事や人物、作品などの確認テスト、確認テストを基にした単元テストの点数から評価します。
		9	先史Ⅰ 1 原始美術 2 エジプト美術 3 メソポタミア美術					○	○		
		6	先史Ⅱ 4 ギリシャ美術 5 ローマ美術					○	○		
		9	中世 6 初期キリスト教、ビザンチン美術 7 ロマネスク美術 8 ゴシック美術					○	○		
		6	前期制作 ☆ カメラオブスクラを用いた制作 or 絵具製作						○	○	
後期	9 ・ 10 11 11 ・ 12 1	10	近世 9 ルネサンス、マニエリスム 10 北方ルネサンス 11 バロック、ロココ					○			【思考・判断・表現】 授業内容の要点となる出来事や人物、作品などに関するレポート等の課題、制作課題で評価します。授業計画表の内容も参考にします。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業計画表の内容、授業中の様子や、テストや課題の取り組みから評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
		4	後期制作Ⅰ ☆ 名画の真似写真撮影					○			
		10	近代 12 新古典主義、ロマン主義、写実主義 13 印象派、新印象派、後期印象派 14 ボン・ダヴェン派、ナビ派、象徴主義						○	○	
		9	現代 15 フォービズム、キュビズム 16 構成主義、新造形主義、抽象芸術 17 形而上絵画、シュルレアリスム、抽象表現主義 18 ネオダダ、ポップアート、それ以降とその周辺					○			
		6	後期制作Ⅱ ☆ モダンテクニックを用いた制作					○	○		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○学習方法 - 授業では副教材の内容を中心に美術史をなぞりながら、出来事や人物、作品などについて学びます。 - 単元毎に授業計画表を提示します。見通しを持って学習に取り組みましょう。 - 各章で確認テストを行います。次の章の授業のはじめに実施するので必ず授業の内容を復習しましょう。 - 各単元で単元テストを行います。単元の最後の授業で実施します。確認テストの内容をもとに出題するのでこちらも必ず復習しましょう。 - 授業内容の要点となる出来事や人物、作品などに関するレポート等の課題を出します。課題毎に締切を設定するので遅れないように提出しましょう。 - 制作課題の締切は単元の最後の授業日とします。計画的に取り組みましょう。休んだ場合や時間が足りない場合は放課後に補習します。（自己申告制） ○その他 - 予定はしていませんが制作課題のために教材費を集める場合があります。その際は文書等でお知らせしますのでご協力願います。 - フェائل等は必要に応じて各自で用意して下さい。											

教科	芸術	科目	探究書道	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	書道の各分野における知識の習得と技能の習熟を図り、発展的な表現・思考力を身につけるとともに、それぞれの分野について実際に演習しながら実践的な能力を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出	授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	・オリエンテーション（王羲之の書）（中国書道史を含む）			◎	○	○	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
		4	文字学			◎	○	○	
	5	4	中国書道史			◎	○	○	
	6	4	日本書道史			◎	○	○	
	7	15	漢字の書			○	◎	○	
	8	漢字の書			○	◎	○		
9	10								
後 期	10	10	漢字仮名交じりの書			○	○	◎	
	11	10	選択表現			○	○	◎	
	12	12	卒業制作			○	○	◎	
	1								
	2								
	3								
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 用具は大切に扱い、特に筆・硯はきれいに洗いましょう。									

教 科	芸術	科目	書道表現	年次	3	単位数	2	選択		
使用教科書	なし									
使用副教材	墨心（大修館書店）									
科目の目標	書道の創造的な制作活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。			
評価の算出	授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	10	・オリエンテーション（王羲之の書）（中国書道史を含む） 半紙臨書：高野山競書大会出品			◎	○	○	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。	
	5	12				○漢字の書：選択古典①（中国書道史を含む） 半紙出品：全道学校書道展	○	◎		○
	6									
	7	20	○漢字の書：選択古典②（日本書道史を含む） 半切出品：国際高校生選抜書店（書の甲子園）			◎	○	○		
	8									
9										
後 期	10	12	○漢字かな交じりの書 言葉や詩文を書く 半切1／2出品：北海道学生書道展			◎	○	◎	【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかもちこに含まれます。	
	11	16				○卒業制作 より良い表現を求めて				○
	12									
	1									
	2									
3										
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・用具は大切に扱い、特に筆・硯はきれいに洗いましょう。										

教 科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	年次	3	単位数	4	必修	
使用教科書	桐原書店『Heartning English CommunicationⅢ』								
使用副教材	桐原書店『HeartningⅢ Workbook for Intensive Listening and Reading』								
科目の目標	Can-Doリストに基づく								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法などを深く理解し、用いることができる。 ・英語を用いた言語活動を通して実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能が身についている。			・必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、話の展開に注意しながら概要や要点などを目的に応じてとらえることができる。 ・日常的、社会的な話題について、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができる。 ・日常的、社会的な話題について、多様な語句や文を用いて複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書くことができる。			・外国語の音声や語彙、表現、文法などを深く理解しようとしている。 ・日常的、社会的な話題について、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続け、会話を発展させようとしている。 ・自分の学習に関して見通しを立てたり振り返ったりして、課題を見つめたり、前の自分と比べて何ができるようになったかや、課題を解決するために必要な取り組みについて具体的に考えている。		
評価の算出	小テスト 定期考査			小テスト 定期考査 パフォーマンステスト			提出物 パフォーマンステスト 振り返り		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	12	Lesson1			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	5	12	Lesson2			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	6	16	Lesson3 前期中間考査			◎ ◎	◎ ◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	7	8	Lesson4			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	8	8	Lesson4			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	9	16	Lesson5 前期期末考査			◎ ◎	◎ ◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
後 期	10	16	Lesson6			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	11	16	Lesson7 後期中間考査			◎ ◎	◎ ◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	12	12	Lesson8			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	1	8	Lesson9			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	2	8	Lesson9			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り、パフォーマンステスト
	3	8	Lesson10			◎	◎	○	小テスト、提出物、振り返り
合計	140								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・用意するもの：教科書、ワークブック、筆記用具、タブレットPC、A4ファイル（二つ穴が開いて閉じられるもの）。 ・この授業では、皆さんの取り組みを細かい項目にわたって評価しますので、テストだけ頑張る、提出物だけ出す、のではなく全体的にしっかり取り組みましょう。 ・ペアワークやグループワークをたくさん行います。英語でどう表現すればわからないときは、タブレットを活用したり、先生に聞いたりして新しい表現を積極的に身につけていって下さい。									

教 科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		FACTBOOK English Logic and ExpressionⅡ							
使用副教材		FACTBOOK English Logic and ExpressionⅡ English Logic and Expression Workbook [Mastery]							
科目の目標		・日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなど を詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。 ・日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにお いて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や 主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うこと ができるようにする。 ・日常的な話題について、使用する語句や文、事前的準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。 ・日常的な話題について、使用する語句や文、事前的準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		・日常的な話題について、使用する語句や文法を身につけている。		・ディベートやディスカッションなどの活動を通して、様々な表現を活用しながら、意見や 主張、課題の解決策などを工夫して詳しく話して伝え合うことができる。 ・情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。		・主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・自分に足りない力、どのような学習が必要なのかを考え、意識して学んでいる。			
評価の算出		定期考査 小テスト		課題 小テスト		提出物 小テスト 振り返り			
年 間 の 学 習 計 画									
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③
	4	6	Unit1 健康・ライフスタイル	文型の拡張：主語の誇張		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	5	5	Unit2 貧困・飢餓	文型の拡張：目的語・説明語句の拡張		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
		2	Thinking Logically1			○	◎	○	英作文課題
	6	2	■前期中間考査（筆記テスト）			◎			定期考査
		5	Unit3 都市化の問題	修飾による拡張：名詞の説明		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	7	5	Unit4 持続可能な都市	修飾による拡張：動詞句の説明、文の説明		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
		2	Thinking Logically2			○	◎	○	英作文課題
	8	5	Unit5 環境保護と文化	時をあらわす表現		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	9	2	■前期期末考査（筆記テスト）			◎			定期考査
		6	Unit6 プラスチックごみ問題	受動態		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	10	2	Thinking Logically3			○	◎	○	英作文課題
		6	Unit7 NGO活動と共生	助動詞および仮定法		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	11	6	Unit8 ジェンダー平等	比較		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
		2	■後期中間考査（筆記テスト）			◎			定期考査
	12	2	Thinking Logically4			○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	1	5	Unit9 地産地消	強調・倒置・省略・話法など		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	2	5	Unit10 シェアリングエコノミー	否定		○	◎	◎	提出物、小テスト、振り返り
	3	2	Thinking Logically5			○	◎	○	英作文課題
	合計	70							
	学 習 方 法 ・ そ の 他								
【授業について】 使用するものは、教科書、P.C、筆記用具、A4バインダー（2つ穴ととめるもの）です。論理・表現Ⅱの授業では、英語で話したり書いたりして、より様々な表現を身につけていきます。授業や学習を通して、しっかりと自分の課題を見つけ、自分にはどのような力が必要か、どんな取り組みをすればその課題を解決できるかを自分で考えて、以前の自分と比べて何がでるようになったかを常に意識して学習に臨んでください。 【課題について】 家庭学習課題として、その日の授業に学んだことを自分で復習してまとめたりするノート提出があります。どうやって復習したりまとめたりするかは各個人に任せます。主体的に学習に取り組む態度の評価対象になります。 【定期テストについて】 文法のみ実施します。知識・技能の評価対象になります。英作文の評価は小テスト等で行います。 【小テストについて】 各Unitが終わるごとに小テストを行います。英作文は知識・技能と思考・表現・判断、スピーキングは思考・表現・判断と主体的に学習に取り組む態度の評価対象になります。									

教 科		外国語	科目	実用英語	年次	3	単位数	3	選択			
使用教科書		CAMBRIDGE “READ THIS!2”										
使用副教材		なし										
科目の目標		Can-Doリストに基づく										
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		・ Readingに必要な語彙、文法知識、Writing Skillが身についている。 ・ 英語のリズム、発音について理解し、正しく発話している。			・ 与えられた情報をもとに、自分の考えについて他者と一定時間やりとりができる。 ・ 読み取った情報を、自分の言葉で端的に要約・再構成して伝えることができる。			・ 英語で発信するために必要な知識、技能を身につけようとしている。 ・ 自分の考えや気持ちを他者に論理的に述べようとしている。				
評価の算出		単語テスト(20%) 定期考査(30%)			各小テスト(10%) ※スピーキング、英作文を含む定期考査(20%)			活動の様子(10%) パフォーマンステスト(話すこと)(10%)				
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③		
前 期	4	1	オリエンテーション						○	単語テスト		
		4	Chapter1 “The World’s Best-Selling Medicine”				○					
		5	4	Chapter2 “First Write…It Helps!”				○				単語テスト
			4	Chapter3 “Student Government”				○				単語テスト
	6	4	Unit1 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文 考査		
		1	前期中間考査				○	○				
		7	5	Chapter4 “Dolphins to the Rescue”				○				単語テスト
			5	Chapter5 “The Gentle Giant from Africa”				○				単語テスト
		8	5	Chapter6 “Animal Detectives”				○				単語テスト
			4	Unit2 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○		○	スピーキング、英作文
9	5	Chapter7 “How the Kiwi Got Its Name”				○			単語テスト			
	1	前期期末考査				○	○		考査			
後 期	10	6	Chapter8 “The Fifth Taste”				○			単語テスト		
		6	Chapter9 “Eat Less, Live Longer?”				○				単語テスト	
		4	Unit3 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○		スピーキング、英作文	
		11	6	Chapter10 “Teenage Con Man”				○				単語テスト
			6	Chapter11 “Fingerprints Don’t Lie- Or Do They?”				○				単語テスト
			6	Chapter12 “I Then…”				○				単語テスト
	12	1	後期中間考査				○	○		考査		
		4	Unit4 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文		
			6	Chapter13 “Death by Internet”				○				単語テスト
		1	6	Chapter14 “The Power of the Mind”				○			単語テスト	
			6	Chapter15 “Miracle on the Hudson”				○			単語テスト	
		2・3	5	Unit5 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文	
合計		105										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
- 教科書、筆記用具、タブレットを毎回の授業時に持参してください。 - 教科書の内容はすべて英語で記載されています。授業外で日本語に訳すなど予習を十分に行ったうえで臨んでください。 - スペースの都合上、各チャプターの時数を多めに設定しています。つきましては、予定よりも早くチャプターが進行する可能性があります。												

教 科	外国語	科目	英語実践	学年	3	単位数	2	選択			
使用教科書	Unlock2										
使用副教材	なし										
科目の目標	英語で書かれた記事の読解を通して、社会的な話題について英語で他者と意見を交換したり、特定のトピックについて論理的な文章を書いたりできる。										
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨	・読解、作文に必要な語彙や文法事項を身につけている。 ・エッセイライティングにおける論理展開の形式を理解し、意見や考え方を述べられる。			・社会的な話題あるいはオープンクエスチョンについて自分の考えや意見を論理的に述べられる。 ・英語で書かれた記事の要旨を理解している。			・英語を積極的に使用して自分の考えや意見を述べようとしている。 ・各レッスンを通して自分の思考や言語運用能力がどう変容したか言語化しようとしている。				
評価の算出	単語テスト(20%) 定期考査(30%)			パフォーマンステスト(20%) ※リスニングテストを含む 定期考査(20%)			振り返り(10%)				
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③		
前 期	4	1 16	オリエンテーション Unit1 PLACES						リスニングテスト 単語テスト 英作文、振り返り 定期考査 リスニングテスト 単語テスト 英作文、振り返り 定期考査		
	5		[読む・聞く] 文中から数値を読み取る [文法・単語]数値を示す表現について理解する			○	○				
	6		[書き]自分が住んでいる場所について良い点と悪い点を挙げる			○	○	○			
		1	前期中間考査			○	○				
	7	16	Unit2 FESTIVALS AND CELEBRATIONS [読む・聞く]本文を読解し、解答の根拠を探す [文法・単語]頻度を表す表現について理解する			○	○				
	8		[書き]“アイディアマップ”を使用して自分の考えを整理して説明する				○	○			
	9	1	前期期末考査			○	○				
	後 期	10	16	Unit3 THE INTERNET AND TECHNOLOGY [読む・聞く]段落のメインアイデアを読みとり、論旨を把握する				○			リスニングテスト 単語テスト 英作文、振り返り 定期考査 リスニングテスト 単語テスト 英作文、振り返り
		11		[文法・単語]意見を述べるための表現について理解する [書き]論拠を示しながら、自分の意見を述べる			○	○		○	
12		1	後期中間考査								
		18	Unit4 WEATHER AND CLIMATE [読む・聞く]自分の知識を活用して、教科書の内容を推測する [文法・単語]グラフについて説明する表現について理解する			○	○				
1			[書き]グラフを読み取り、それについて説明する				○	○			
2											
3											
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・教科書、筆記用具、タブレットを毎回の授業時に持参してください。 ・海外製の教科書を使用します。授業外で日本語に訳すなど予習を十分に行ったうえで臨んでください。											

教 科	外国語	科目	時事英語	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	エミル出版“NEWSBREAKS for BASIC English Learners 2025” エミル出版“info.box 2025-26 for ELEMENTARY English Learners”								
使用副教材	数研出版「英語演習ノートORANGE版-英文法の確認-」								
科目の目標	1 社会的な話題について読んだり聞いたりしたことをもとに、情報を簡潔に伝え、自分の考えや気持ちを論理的に述べられる。 2 日常的な話題について、自分の考えや気持ちを論理的に話し合うことができる。 3 高校レベルの英文法について理解し、必要に応じて活用することができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・正しい語順と語彙を理解し、作文や発表ができている。 ・正しい発音と流暢さを意識して発話しようとしている。			・与えられた情報をもとに、自分の考えや気持ちを論理的に述べることができる。 ・読み取った情報を、自分の言葉で要約・再構成することができる。			・間違いを恐れず自分の考えや気持ちを述べようとしている。 ・ICTを活用して情報を読み取り、発信しようとしている。		
評価の算出	確認テスト パフォーマンステスト			確認テスト パフォーマンステスト			パフォーマンステスト 確認テスト 提出物		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	2	オリエンテーション（自己紹介アクティビティ）				○	○	確認テスト 確認テスト
		2	Topic 1 “Ichiro in the Hall of Fame”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		2	Topic2“Inflation and Food Prices”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
	5	1	確認テスト			○	○	○	確認テスト 確認テスト 確認テスト パフォーマンステスト
		2	Topic3“The World’s Poorest President”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	パフォーマンステスト				○	○	
	6	1	確認テスト			○	○	○	確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic 4 “Forest Fires in Japan”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic5“Expo2025 Osaka”【昨年度版info.boxを使用】			○	○	○	
		1	確認テスト			○	○	○	
	7	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト
		2	パフォーマンステスト			○	○	○	
	8	2	Topic1【今年度版info.boxを使用】			○	○		ライティング 確認テスト
		2				○	○		
	9	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic2【今年度版info.boxを使用】			○	○		
1		確認テスト			○	○	○		
2		Topic3【今年度版info.boxを使用】			○	○			
10	2	Topic4【今年度版info.boxを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト	
	4	パフォーマンステスト			○	○	○		
	4	プレゼンテーション			○	○			
後 期	10	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト プレゼンテーション 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic5【今年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic6【今年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		1	確認テスト			○	○	○	
	11	2	Topic7【今年度版info.boxを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト プレゼンテーション
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic1【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		
		1	確認テスト			○	○	○	
		2	パフォーマンステスト			○	○	○	
	12	2	Topic2【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic3【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
	1	2	確認テスト			○	○	○	ライティング
		2	パフォーマンステスト			○	○	○	
2	4	パフォーマンステスト			○	○	○	ライティング	
3	4	パフォーマンステスト				○	○	プレゼンテーション	
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・この授業で使用する教科書は最新の時事問題を扱うため、6月中旬に届くまではプリントでの学習になります。 ・定期考査は実施せず、主に確認テスト、パフォーマンステスト（作文、インタビューなど）を通して評価を行います。積極的に英語を使うことを期待します。 ・持ち物はタブレット、筆記用具、『英語演習ノートORANGE版』、『info.box』、『NEWSBREAKS』の5点です。時期に関わらず全て持参してください。 ・タブレットではプレゼンテーション資料の作成や、単語調べに使用します。 ・予習は不要です。ただし、パフォーマンステスト確認テストに向けた復習を強く推奨します。									

教 科 科	家庭	科目	フードデザイン	年次	3	単位数	2	選択						
使用教科書	フードデザイン新訂版													
使用副教材	なし													
科目の目標	栄養についての学習を通して健康な食生活を計画し営む知識と技術を習得するとともに、調理実験や実習を通して食品の特徴などの理解を深める。また、食に関する広い範囲の内容と、環境等の問題も合わせて理解する。													
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度							
評価の趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけている。栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身につけている。			食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身につけている。			食生活に関する諸問題に関心を持ち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につけている。							
評価の算出	【知識・技能】テスト、実習 【思考・判断・表現】テスト、観察、ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】観察、ワークシート、実習													
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法						
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③					
前 期	4	1	オリエンテーション			◎	◎	テスト						
		5	1章 食生活と健康											
	5	4	4章 調理の基本											
		2	2章 栄養素の働きと食事計画											
		2	＜前期中間考査＞											
	6	8	2章 栄養素の働きと食事計画						◎	◎				
		7	4	2章 栄養素の働きと食事計画										
	8		6	2章 栄養素の働きと食事計画										
			4	（調理実習）										
9	6	3章 食品の特徴・表示・安全			◎	◎								
	2	（調理実習）												
後 期	10	6	（調理実習）				◎	◎			観察、ワークシート			
		11	4	3章 食品の特徴・表示・安全										
	2		6章 フードデザイン実習											
	2		＜後期中間考査＞											
	12	6	7章 食育						◎	◎				
		1	6	5章 料理様式とテーブルコーディネート										
	合計		70											
	学 習 方 法 ・ そ の 他													
	≪授業について≫ ・食生活の充実と向上を目指し、さまざまな視点から食について学びます。自分の生活と関連づけて各分野の学習に取り組みましょう。													
≪定期考査≫ ・年2回実施（前期中間、後期中間）														

教 科		家庭	科目	保育介護		年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし									
使用副教材		なし									
科目の目標		家庭生活に関わる保育や介護について、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭・地域・社会の果たす役割や、保育・介護を取り巻く課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		子どもや高齢者を取り巻く現状を理解し、その解決に向けて思考を深めている。子どもの生活や発達段階、高齢者の生活課題を理解したうえで、子どもや高齢者と触れ合うことができる。			子育てや介護の課題を見いだし、解決に向けて思考を深め、判断し工夫創造することができる。			子どもや高齢者に関心を持ち、社会の一人として保育・介護のあり方を自らの課題として考えようとしている。			
評価の算出		ワークシートや定期考査、授業態度などで評価を算出します。									
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション								ワークシート
	4	4	子どもの発達								
	4	4	子どもの発達過程								
	5	6	子どもの保育						◎	◎	
	6	7	子どもの生活								
	7	5	高齢者のこころとからだの基礎的理解								
	7	5	高齢者の発達や老化、認知症の理解						◎	◎	
	8	4	高齢者福祉の制度とサービス								
	9	6	介護の意義と役割								
9	1	前期期末考査					◎	◎		考査	
後 期	10	5	高齢者の健康と生活								考査 ワークシート、実習 実習 ワークシート、実習
	11	3	子どもの福祉								
	11	1	後期中間考査					◎	◎		
	12	6	乳幼児・高齢者向け献立調理実習（おやつ・介護食）					◎	◎	◎	
	1	4	子どもの文化						◎	◎	
	2	4	子育て支援と保育								
	3	4	高齢者の自立支援と介護					◎	◎	◎	
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
家庭生活における保育・介護について、様々な視点から学びます。自分自身の日常生活の中で実践できるよう、興味・関心を持って授業に臨みましょう。定期考査は年2回です。											

教 科	情報Ⅰ	情報Ⅱ	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書	情報Ⅱ（東京書籍）							
使用副教材	なし							
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて発展的に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）情報技術を活用した情報社会への寄与を目指し、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 （２）問題の発見・解決に向けてコンテンツ制作、データサイエンスなどの高度な情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 （３）情報と発展的な情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	情報と情報技術についての知識と技能。情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての発展的な知識と技能を身に付けるとともに、コンテンツ制作、データサイエンスの理解、Webページ作成などの高度な情報技術を身につける。		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。		情報と情報技術を適切に活用することを通して、実習に取り組む態度、高度な情報技術を身につけようとする姿勢などを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
評価の算出	定期考査（年１回：前期末のみ実施）や小テスト・実習課題等への取組状況、日々の授業に取り組む態度などを総合的に評価し、各評価観点ごとに「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」の３段階で評価を算出する。							
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容		①	②	③	
前 期	4	6	オリエンテーション ・問題解決学習の進め方 ・POSシステムを調べる		○	○	○	
	5	8	コミュニケーションの多様化 ・うわさの研究 ・プレゼンテーション		○	○	○	
	6	8	メディアの特性と利用 ・Webページ作成 ・コンテンツ制作 ・Webページ相互評価		○	○	○	
	7	8	人間の知的活動への影響 ・機械学習と人工知能		○	○	○	
	8	4	人間の知的活動への影響 ・人工知能と仕事を考える		○	○	○	
	9	2	社会にあふれるデータ・データベースの管理と操作 ・データの分類や特性 ・構造化データと非構造化データ		○	○	○	
		6	データの収集と整理 ・データの収集方法と収集されたデータの整理 ・テキストマイニング実習 ・まとめ、発表		○	○	○	
			前期期末考査		○	○	○	
	後 期	10	10	データの分析と分類 ・相関関係と因果関係の違い ・回帰分析		○	○	○
		11	4	好きなものをマップにしよう ・分析データの活用			○	○
		4	モデルの評価と検証 ・ガチャは何回引けば当たるのか		○	○	○	
12		6	情報システム・情報セキュリティ技術 ・仮想通貨、電子マネーについて ・情報システムの信頼性 ・暗号化の技術、仕組み		○	○	○	
1		4	情報システムのプログラム ・プログラムの設計、目的		○	○	○	
合計	70							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
・ 普段の授業を大切にする。 ・ 情報処理教室を使用する際には、コンピュータや室内の物品の取り扱いに十分に気をつけること。								

教 科		商業	科目	ビジネス技術	学年	3	単位数	3	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級									
科目の目標		企業において必要とされるビジネスに関する技術や文書作成に係る技術を習得することで、社会人としての基礎力・活用力を養う。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		Word・Excelを使用したビジネスに関する知識・技術について習得できている。			職場での活用を見据え、より良い資料作成について工夫できている。			自らの将来を見据え、進路意識を持って授業に取り組んでいる。			
評価の算出		単元テスト 実技試験 検定試験			単元テスト 実技試験 検定試験			日々の取り組み 提出物			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	10	○タイピングの基礎 ・タッチタイピング				◎	○	○	日々の取り組み・実技試験	
	5	13	○ビジネス文書の作成 ・文書作成				◎	○	○	日々の取り組み・実技試験	
	6	11	○筆記対策 ・機械操作 ・文書の種類・作成、プレゼンテーション ・言葉の知識				◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	7	8	○ビジネス文書実務検定				◎	◎	○	検定試験	
	8	8	○Excel関数				◎	◎	○	日々の取り組み・実技試験	
	9	10	○Excel応用 ・複合参照、マルチシート、グラフの作成				◎	◎	○	日々の取り組み・実技試験	
後 期	10	12	○データベース ハードウェア・ソフトウェア ・リレーショナル型データベース ・SQL ・ハードウェアの構成 ・ソフトウェアに関する知識				◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	11	12	○通信ネットワーク 情報モラルとセキュリティ ・ネットワークの構成、活用 ・権利の保護と管理、セキュリティ管理				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト	
	12	12	○全商情報処理検定試験対策				◎	◎	○	日々の取り組み	
	1	9	○全商情報処理検定試験対策 ○全商情報処理検定試験				◎ ◎	◎ ◎	○ ○	日々の取り組み 検定試験	
	2										
	3										
合計		105									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・ コンピュータの操作が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・ 章末テストや、実技試験などを評価対象とする。 ・ 全商ビジネス文書実務検定2級、全商情報処理検定2級の取得を一目標とするため、それに対する取り組みも評価対象とする。											